

新聞社説における結束性の日中対照研究：反復表現を中心に

単, 艾婷

九州大学大学院地球社会統合科学府：博士課程

松村, 瑞子

九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門・言語教育学講座

<https://doi.org/10.15017/7153570>

出版情報：言語科学. 52, pp.29-46, 2017-03-31. The Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

新聞社説における結束性の日中対照研究

—反復表現を中心に—

単 艾婷¹・松村 瑞子

1. はじめに

テキスト性を支える構造的な要因として、「結束性(cohesion)」、「卓立性(prominence)」、及び「全体的構造(macrostructure)」が考えられる。そのうち、文の集まりがテキストを成している際、何らかの形で提示される情報の連続性を示す仕組みを「結束性」という(池上 1983: 11)。結束性に関する先駆的な研究は Halliday & Hasan (1976)であり、彼らは結束性が文法的単位を超えた意味的まとまりの概念であることと、その概念を言語的に表出する手段として、(a) 指示、(b) 省略、(c) 代用、(d) 接続等の文法的手段及び(e) 語彙的手段があることを提案している。

本稿は、そのうちの「語彙的結束性」に着目し、日中両言語の新聞社説においてその共通点と相違点を探ることを目的とする。なお、「語彙的結束性」(Halliday & Hasan 1976、池上 1983、小野 1997、塩澤 1994、高崎 2005 など)という言い方以外に、繰り返し語句(市川 1978、牧野 1980 など)、反復語句(相原 1985、馬場 2006 など)という用語も見られるが、本稿では、日本語の文章・談話論における用語「反復表現」(寺村ほか 1990)を用いる。「反復表現」の現れ方を形態と機能の観点から調査し、日中両言語の新聞社説における反復表現の使用実態を明らかにする。

2. 先行研究

2.1 日本語の反復表現に関する研究

2.1.1 結束性の観点から見た語彙的結束性

Halliday & Hasan (1976)は「語彙的結束性」の原理について、語彙的意味の連続性によって結束的効果が達成されると述べ、語彙的結束性のタイプを(1)再叙(reiteration)と(2)コロケーション(collocation)に大別し、(1)の再叙の下位分類として(a)同一語(繰り返し)、(b)同義語(または近似同義語)、(c)上位語、(d)一般語に分類している。池上(1983)は、結束性を作り出す語彙的手段として、大きく「同一語句の反復」と「関連語句の反復」の2種類に分類している。「同一語句の反復」の最も典型的な例は、固有名詞(あるいは、それに準じる性質の名詞)の反復であり、「関連語句の反復」は「類似性」と「近接性」に基づく関連語句の反復であると述べている。小野(1997)は、語彙的結束性を「同一指示」、「同一分類」、「同一外延」に分類し²、三範疇のうちで同一分類(繰り返し)が最も多く見られたと結論付けている。塩澤(1994, 2000, 2004)は、語彙的結束性はテキストの

¹ 九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程

² ハリデー／ハッサン(1991:122-137)では、語と語の関係について文法的結束性の仕組みと語彙的結束性の仕組みを考え、「同一指示」「同一分類」「同一外延」の三種の方法を挙げている。「同一指示」：小さくなる木の木⇔それ、「同一分類」：チェロを弾く⇔する、「同一外延」：金⇔銀、木⇔枝⇔芽。Cruse(1986:84-109)では、現実世界における二つの物の関係を、同一、包含、接種、異種の四とおりの可能性があると指摘した上で、(A)上位下位関係、(B)部分関係、(C)パラ関係、(D)疑似関係、(E)その他を分類している。小野(1997)はそれらを参考に「同一指示」「同一分類」「同一外延」を大別し、「同一分類」の下位分類として「繰り返し、疑似関係、パラ関係、例、箇条書き、定義」がある。また「同一外延」の下位分類に、「上位一下位関係、全体一部分関係、対立関係、対義関係、その他」がある。

一般的構造を探るために用いる中心的な概念の一つであると指摘し、社説、解説文、コラムを資料に、語句の反復を同一語句の反復をはじめ、類義関係、上位概念と下位概念の関係、意味の接近性、対義的關係にある語句に分類し、文章の話題のまとまりと展開にどのように関与するのか、また文章構造を解明する上でどのような手がかりを与えるのかを分析した。高崎 (2005, 2007)は、随筆を材料に、テキスト本文以前の指標及び開始第1文を対象として、語彙的結束性の観点から同一語句の繰り返しの様相を分析した。

2.1.2 文章論の観点から見た繰り返し語句・反復語句

永野 (1986)は、「接続関係を示す諸形式」として「接続語」「指示語」などと共に、「同語反復・言い換えなど」を挙げて、「主要語句の連鎖」を系列として関係付けている。市川 (1978)は、前後の文脈を関係付けている同一語句、同義・類義の語句を一括して、「繰り返し語句³」と呼び、「反復拡充型」「変換型」「混合型」といった形式的分類と、「受け継ぎ」「重出」「照応」といった質的な分類があると指摘している。相原 (1985)は、文章表現の中に同じ語句や文が反復⁴して使用されることのある現象に着目して、それらを形態と機能⁵の両面から分類し、合わせて文章表現における効果について考察を行った。馬場 (1986, 2006)は、反復語句の重要度の違いを文章の主題との関連で捉え、<反復距離><区間頻度><全体頻度>という3種類の尺度を用いて、形式的に認定する方法を具体的な文章例を示しながら提示し、さらに、「反復語句」と近似する文章分析の一観点である「主要語句の連鎖」との関連を考察した。

また、語句の繰り返しの最新の研究に鯨井 (2014)がある。鯨井は同一語句の繰り返しに注目し、その現れ方を形式(「名詞単独」「修飾部を含む」「名詞の一部」)及び、用例数から調査し、同一語句の繰り返しの使用実態の一端を明らかにした。

2.2 中国語の反復表現に関する研究

中国語における語彙的結束性の研究には黄 (1988)、胡 (1994)、鄭 (2009)があるが、黄 (1988)と胡 (1994)は Halliday & Hasan (1976)の分類を中国語に翻訳したもので、詳細な分析は見られなかった。鄭 (2009)は、永野氏の主要語句連鎖という理論の中国語への応用可能性という視点から、中国語の実情に鑑みて実際の文章を用いて検証し、中国語における文章構造を主要語句の連鎖という観点から解明することを試みたものである。中国語文章論にもこの新理論の導入が可能であることが明らかになった。

また対照研究として西光(1990)が挙げられる。西光は日本文学作品の英訳を資料に、繰り返しの分析を通して、日英対照談話構造の分析を行った。日本語の原文には繰り返しが多く見られるが、英米人の英訳には省略が多く、簡潔であると指摘している。

中国語における語彙的結束性の研究のほとんどは Halliday & Hasan (1976)の分類を中国語に翻訳したもので、詳細な分析は見られなかった。また日中両言語における語彙的結束性の対照研究は管見の限りまだないようである。そこで本稿は、主に日本語の先行研究を参照して、中国語の語彙的結束性を分析し、日中両言語における語彙的結束性の対照分析を試みる。

³ ただし、市川は以下の(1)(2)を補足している。(1) 付属語・補助用言・形式名詞・接続詞・感動詞は、「繰り返し語句」に含めない。(2) 指示語については、文脈中のことがらを指示することなしに繰り返しに用いられるもの(私・彼、など)だけを「繰り返し語句」に含める(市川 1978: 80)。

⁴ 相原 (1985)では「反復」を「反覆」と記している。

⁵ 形態: 1 語句の反復、2 文の反復、3 語種を変えての反復、4 文型の反復、5 有標の反復と無標の反復。
機能: 6 表と裏の反復、7 対偶の反復、8 拡充の反復、9 漸層の反復、10 接続の反復、11 要約の反復、12 比喻による反復。

3. 分析資料及び方法

3.1 分析資料

本稿では、新聞社説を分析資料として用いる。その理由は以下の通りである。論説文の代表とされる社説は、1 文章の長さがほぼ一定しており、テーマに極端な偏りがない。また社説の執筆者には複数の論説委員が関わっているため、個人差による偏りも避けられる。日本語の『朝日新聞』と中国語の『新京報』における 2015 年 4 月・5 月分の社説を無作為に 5 篇ずつ抽出し、分析を行った。その内訳は表 1 に示す通りである。

表 1 分析資料⁶の内訳

	社説の見出し
朝日新聞	① 原爆ドーム 100年に考える役割(2015/04/05-2) (28文：1000字)
	② 検定発表 教科書はだれのものか(2015/04/07-2) (35文：952字)
	③ パイロット不足 安全第一を徹底せよ(2015/04/08-1) (22文：970字)
	④ 温暖化対策 地球益に背を向けるな(2015/04/12-1) (27文：974字)
	⑤ JR山手線 安全を一から見直せ(2015/04/16-1) (26文：951字)
新京報	① 进京大货车这个“霾凶”该治治了(2015/04/02) (22文：1188字) 北京行きの大型トラックこの「PM2.5犯人」は退治すべき
	② 虐童案警示：应对收养人做心理评估(2015/04/05) (23文：1092字) 児童虐待事件の警告：引取り人の心理評価をすべきだ
	③ “不合理低价”是旅游业乱象根源(2015/05/03) (27文：1051字) 「不合理な低価格」は観光業の乱れの根源だ
	④ 提网速降网费，高校可以例外？(2015/05/17) (26文：933字) インターネットのスピード上げ・料金下げについて、大学は例外にできる？
	⑤ 城市里为何总有噬人的深井(2015/05/23) (21文：1122字) 都市になぜいつも人間を飲む深い井戸があるのか

3.2 分析方法

分析方法として、反復表現の①形態と②機能から分析していく。①形態面では、Halliday & Hasan (1976)と池上(1983)を参考に、反復表現を大きく(i)「同一語句の反復」と(ii)「関連語句の反復」に大別し、さらに「関連語句の反復」の下位区分として、a. 同義語、b. 上位語、c. 一般語、d. 共起語⁷に分類する。なお、(1)「同一語句の反復」と(2)「関連語句の反復」については、以下のように定義する。

- (1) 「同一語句の反復」：同じ語句が繰り返されている表現である。
- (2) 「関連語句の反復」：元の語句と関連のある語句が繰り返されている表現である。

②機能面では、まずテキスト型データの計量的な内容分析用フリーソフト KH-Coder⁸を用いて、高頻度の同一語句を抽出する。次に、抽出した語句の社説全体との関連性を

⁶ 本稿の分析資料において数字は日付を表し、(2015/04/05-2) は 2015 年 4 月 5 日、2 篇目の社説を意味する。また、中国語の『新京報』における例文の日本語訳は全て拙訳である。翻訳する際にできるだけ直訳するように心がけた。また、中国語が分かる複数名の日本語母語話者にチェックしてもらった。

⁷ Halliday & Hasan (1976)によると、コロケーションは(共起語)は、規則的に共起する語彙項目が結びつくことによって形成される結束性であるという。例えば、順序付けのある同じ連続から得られるペアをなす語、順序付けのない語彙の集合、全体と部分として関係している場合、部分と部分として関係している場合など。

⁸ 樋口 (2014)で開発したテキスト型データの計量的な内容分析もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである。

見る。具体的には、それらが「見出し」、「冒頭文」、「末尾文」のいずれに出現しているかを調査する。反復表現は、文章・談話の中で二回以上繰り返される表現とされるのが一般的である（馬場 2006、中村ほか 2011 など）が、本稿は高崎（1986）を参照して、社説全体で三回以上出現したものを分析対象とする。高崎によれば、「三」という数は、あくまでも便宜的なものであるが、例えば二回だと、文脈の主たる流れにあまり関係のないものも含めて数多く集まりすぎてしまい、かえって文脈がつかみづらくなってしまふということである。また、文章の中心概念やキーワードは名詞句が最も多いため（鯨井 2014⁹）、本稿も名詞句に絞って、調べていく。

まとめると、社説の本文のうち、3回以上出現した同一名詞句を観察してみる。それから、実際の文章例を取り上げ、関連語句の反復も合わせて社説全体との関連性を分析する。

4. 分析

4.1 形態の観点：同一語句の反復と関連語句の反復

4.1.1 日本語の新聞社説における同一語句の反復と関連語句の反復

(i) 同一語句の反復

- (1) 爆風に耐えた廃墟は戦後、**原爆ドーム**と呼ばれるようになる。96年には「Hiroshima Peace Memorial (Genbaku Dome)」の名で世界遺産に登録された。1万数千発の核兵器がある現代、**原爆ドーム**が発するメッセージは重い。(2015/04/05-2)

(ii) 関連語句の反復

a. 同義語

- (2) 教科書編集の指針を見直し、領土問題について**日本政府の考え方**を書くよう求めた。検定基準も、慰安婦や戦後補償など**政府見解**がある事柄はそれに基づいて記すよう改めた。(2015/04/07-2)

b. 上位語

- (3) それでも、日本が核廃絶を世界に訴えるうえで、**原爆ドーム**を核時代の「証人」として発信し続ける責任は大きい。(中略) 見ただけで惨状がわかる**遺構**の存在は貴重だ。(2015/04/05-2)

c. 一般語

- (4) **作業員**や重機の手配に時間がかかるとしても、とりあえず見張り要員を配置する手も考えられたはずだ。山手線はラッシュ時に2分間隔で電車が来る**超過密路線**だ。それを支えるのは、最新鋭の自動列車制御装置(ATC)といった安全システムと、設備を保守する**人間**の手作業である。(2015/04/16-1)

d. 共起語

- (5) ところが、そんな**大学**の一つである桜美林大（東京）で手続きの不備が見つかり、同大学が指定を返上する事態となった。資格を取った**学生**の技量を国が確かめたところ問題はなかったというが、見過ごすわけにはいかない。(2015/04/08-1)

(1)は「同一語句の反復」の例であり、「原爆ドーム」という同じ語句が後文に反復されている。(2)～(5)は「関連語句の反復」の例である。(2)前文では「日本政府の考え方」が用いられているのに対し、後文では「政府見解」といった同義語が用いられている。(3)

⁹ 鯨井（2014）では実質的意味を持つ語句のくり返しを調査した結果、名詞句は82.83%の割合で、動詞・形容詞・形容動詞は17.17%の割合という結果を示している。

は「遺構」という「原爆ドーム」の上位語が用いられ、(4)は「人間」という「作業員」の一般語が見られた。また、(5)は「大学」と「学生」という共起語が見られた。「大学」という枠が設定されてから、それに関連する「学生」のことが後文に述べられている。このように、同一語句の反復も関連語句の反復も、前文と後文のつながりを保っている。

4.1.2 中国語の新聞社説における同一語句の反復と関連語句の反復

(i) 同一語句の反復

(6) 研究表明，机动车、工业生产、燃煤、扬尘等是当前我国大部分城市环境空气中颗粒物的主要污染来源，约占 85%—90%。其中北京、杭州、广州、深圳的首要污染来源是机动车。(2015/04/02)

(6') 研究によると、自動車、工場生産、石炭、塵やほこりなどは、当面わが国の大部分の都市における大気中の微粒子状物質の主な汚染源となっており、約 85%~90% を占める。その中で北京、杭州、広州、深圳の主な汚染源は自動車である。

(ii) 関連語句の反復

a. 同義語

(7) 孩童与收养人的地位是严重不对等的，而人性又是复杂的，如果被收养孩童的幸福只寄托于收养人的道德自觉，那无异于拿孩子的命运冒险。因此，我们应当借鉴国外经验，对收养法律与政策进行细化，建立起对收养人的心理评估以及事后跟踪机制。这才是对孩子负责的态度，也才能最大程度避免虐童悲剧重演。(2015/04/05)

(7') 児童と縁組人の地位はひどく不平等であり、人間性も複雑である。養子になった児童の幸せは縁組人の道德意識のみに託したら、その子供の運命は冒険に等しい。そのため、海外の経験を参考に、関連法律と政策を細分化し、縁組者の心理評価及び、事後追跡メカニズムを確立しなければならない。これこそ、子供に責任を持つ態度であり、また繰り返される児童虐待の悲劇を最大限に避けることができよう。

b. 上位語

(8) 昨日，一组男童受虐的图片在网上风传。(中略) 在那组图片上，孩子浑身淤青，伤痕遍布，简直惨不忍睹。(2015/04/05)

(8') 昨日、男の子が虐待された写真がインターネット上で噂になった。(中略) その写真の中、子供は全身あざと傷跡に覆われ、悲惨で見えてられない。

c. 一般語

(9) 前日，西安市长安區一名 2 岁男童不慎坠入 60 米深井，由于井口较小，无法下井，(中略) 救援人员在井的旁边已新钻一个深约 35 米的竖井，今晨 8 时许，连接两井之间开挖的井下横向通道已经挖通，然后破拆井壁救人，最终，历经 18 个小时，男童成功被救出。(2015/05/23)

(9') 一昨日、西安市長安区で 2 歳の男の子はうっかり 60 メートルの深い井戸に落ちた。井戸の口径が小さいため、入ることができず、(中略) 救援者はその井戸の隣に新たに 35 メートルの井戸を掘り、今朝 8 時ごろ、両井戸間の通路を作ることができ、壁を外して人を救い、ようやく 18 時間後、男の子の救出に成功した。

d. 共起語

(10) 网速慢、收费贵，这样的抱怨在高校尤为明显。(中略) 一直以来，大学生在校园、宿舍上网，不仅要付出很高的上网费用，且有诸多限制。

(10') インターネットの通信スピードは遅いが、ネット代は高い。このような苦情は大学で特に著しい。(中略) 今まで、大学生はキャンパスや寮でインターネットを利

用する際、高い費用を払うだけではなく、多くの制限もある。

(6)は「同一語句の反復」の例であり、「机动车」(自動車)という同じ語句が後文に繰り返されている。(7)~(10)は「関連語句の反復」の例である。(7)前文では「孩童」(児童)が用いられているのに対し、後文に「孩子」(子供)といった同義語が用いられている。(8)は「孩子」(子供)という「男童」(男の子)の上位語が用いられ、(9)は「人」(人)という「男童」(男の子)の一般語が用いられている。また、(10)は「高校」(大学)と「大学生」(大学生)という共起語が見られた。このように中国語の社説においても、同一語句の反復と関連語句の反復によって、前文と後文の結束性を保っている。

4.2 機能の観点：同一語句・関連語句の反復と社説全体との関連性

前節では、形態の観点から日本語と中国語の社説における同一語句・関連語句の反復を観察した。本節では、機能の観点から、同一語句・関連語句の反復と社説全体との関連性を探ってみる。まず、日本語の『朝日新聞』と中国語の『新京報』における2015年4月・5月分の社説を無作為に20篇ずつ選択し、KH-Coderを用いて抽出した3回以上反復された同一語句の「見出し」、「冒頭文」、「末尾文」との関連性を調査する。

4.2.1 日本語の新聞社説における同一語句・関連語句の反復と社説全体との関連性

以下の例(11)(12)(13)を見てみよう(表2)。

表2

見出し	名詞句	頻度	見出し	冒頭文	末尾文
(11) 原爆ドーム 100 年に考える役割 (2015/04/05-2)	原爆	10	○	○	○
	ドーム	9	○	○	○
	広島	5		○	
	核	4			
	世界遺産登録	3			
	遺構	3			
	時代	3			
(12) 検定発表 教科 書はだれのもの か(2015/04/07-2)	教科書	11	○	○	
	検定	6	○		
	教育	5			○
	政府	5			
	国	4		○	
	見解	3			
	子ども	3			
(13) パイロット不足 安全第一を徹底 せよ(2015/04/08-1)	領土	3			
	操縦士	10		○	
	不足	4	○	○	
	健康管理	3			
	航空会社	3		○	
	国	3			
	事故	3			○
大学	3				

例(11)高頻度の同一語句「原爆 10」「ドーム 9」「広島 5」から、この社説は広島原爆

ドームに関する内容と分かる。また「核4」「世界遺産登録3」「遺構3」「時代3」の語句から、原爆ドームの歴史や核問題、世界遺産登録などに関する部分話題を端的に予測することができる。(12)高頻度の同一語句「教科書11」「検定6」「教育5」「政府5」から、この社説では教科書検定の問題が話題に取り上げ、「国」や「政府」から領土問題に対する見解も議論することが予想される。(13)は「操縦士10」「不足4」から、操縦士・パイロット不足という全体的内容を把握することができる。また、「健康管理」「航空会社」「国」「大学」「事故」などの語句から、パイロット不足に対して、健康管理の強化、国や航空会社の対策などの部分内容がおおよそ予測される。表2から分かるように、よく反復される同一語句は、社説の話題や中心的内容を反映している。見出し、冒頭文、末尾文のいずれかに含まれている場合が多く、社説が何について書かれているのかを端的に把握することができる。しかし、同一語句の反復のみでは、社説内容の展開と流れを把握することが難しく関連語句の反復も合わせてみていく必要がある。ここでは、前述のデータのうちの1文章例を取り上げ、同一語句及び関連語句の反復と社説全体との関連性を見てみる。

文章例1： パイロット不足 安全第一を徹底せよ (2015/04/08-1、970文字)

1 格安航空会社(LCC)の定着・拡大で航空機の乗客が増えるにつれて、国際的な操縦士不足が大きな問題になっている。

2 日本でも、40歳代に偏る操縦士が15~20年後に一斉に定年退職する「2030年問題」への懸念に加え、昨年には操縦士不足からLCCで欠航が相次ぐ事態となった。3 危機感を強めた国土交通省は、昨年夏の審議会提言を受けて、対策を検討中だ。

4 短期策としては、外国人の積極活用、操縦士の年齢上限の引き上げ、使用可能な医薬品の拡大、通常は機長昇格まで7~8年という副操縦士の期間の短縮などを掲げた。5 今月下旬に年齢の上限を「65歳未満」から「68歳未満」とするなど、順に実施に踏み切っている。

6 LCCを含む空のネットワークを充実させることは、国内の旅行客や訪日客を伸ばし、経済活性化につなげるためにも欠かせない。

7 しかし、乗客の安全・安心を揺るがしてはならないことは論をまたない。8 その最大の責任者であり、緊急時に最後の頼みの綱ともなるのが操縦士である。

9 ドイツのLCCの墜落事故は、そんな当たり前のことを改めて考える機会となった。

10 原因を軽々に特定することは控えるべきだが、副操縦士が病を抱えていたこと、操縦室で1人になった際に意図的に機体を降下させたことは、どうやら事実のようだ。11 なぜ副操縦士の乗務を事前に止められなかったのか。12 全世界の航空会社が突きつけられた問いである。

13 わが国の審議会の報告書には、航空会社の健康管理部門への指導の強化や、乗務員の疲労リスク管理システムの導入検討が盛り込まれた。14 ただ、これらは「健康管理を強化しつつ、もっと働いてもらう」という狙いがある。15 ドイツ機の事故を受け、まずは健康管理に的を絞るべきではないか。

16 操縦士不足の中、長期的な対策の柱が、私立大学など民間養成機関の拡充だ。17 国の指定を受け、技能審査まで行うことで国の試験を省略できる。18 産官学の協議会は奨学金の創設など学生の負担軽減策を急いでいる。

19 ところが、そんな大学の一つである桜美林大(東京)で手続きの不備が見つかり、同大学が指定を返上する事態となった。20 資格を取った学生の技量を国が確かめたとこの問題はなかったというが、見過ごすわけにはいかない。

21 不足の穴埋めより、操縦士の質の維持・向上である。22 事故が起きてからでは遅い

ことを、国交省は肝に銘じてほしい。

※「パイロット・操縦士」関係→□、「不足」→不足、「対策」関係→○○対策、「事故」関係→○○事故

この社説の本文では、見出しの「パイロット」と同義語である「操縦士」が10回反復され、社説全体にわたって繰り返され、また上位語の「乗務員」、共起語の「副操縦士」「機長」などの関連語句も見られる。「対策」関係にそれぞれ「対策、短期策、中・長期的な対策、負担軽減策」があった。社説の展開・流れとしては、操縦士不足に対して、いくつかの対策が検討されていることが分かる。「事故」関係にはそれぞれ「ドイツのLCCの墜落事故、ドイツ機の事故、事故」が見られた。操縦士不足と言っても、事故が起きないように安全面も呼びかけている、との書き手の意見が伺える。このように、同一語句や関連語句の反復によって、社説の話題のまとまりと展開の様相を捉えることが可能である。なお、「文章例1の反復図」は文末の資料を参照されたい。

4.2.2 中国語の新聞社説における同一語句・関連語句の反復と社説全体との関連性 以下の例(14)(15)を見てみよう(表3)。

表3

見出し	名詞句	頻度	見出し	冒頭文	末尾文
(14) 进京大货车这个“霾凶”该治理了(2015/04/02)(北京行き的大型トラックという「スモッグ犯人」を退治せよ)	北京(北京)	12		○	○
	机动车(自動車)	9			
	污染(汚染)	8		○	
	标准(標準)	6			
	货车(貨物車)	6	○		
	城市(都市)	4		○	
	北京市(北京市)	4			
	大气(大気)	3		○	
	工作(仕事)	3		○	
	来源(出所)	3			
	治理(統治管理)	3			
	研究(研究)	3			
车辆(車両)	3				
(15) 城市里为何总有噬人的深井(2015/05/23)(都市になぜいつも人間を飲む深い井戸があるのか)	深井(深い井戸)	14	○	○	
	城市(都市)	9	○		○
	男童(男児)	7		○	
	管理(管理)	7			○
	孩子(子供)	6			
	私井(個人の井戸)	6			
	坠井(井戸に落ちる)	5			
	危险(危険)	4			○
	安全(安全)	4			○
	西安(西安)	4		○	
	部门(部門)	4			
	事件(事件)	3			
北京(北京)	3				
开发商(開発業者)	3				

例(14)の高頻度同一語句「北京12」(北京)、「机动车9」(自動車)、「污染8」(汚染)、「货车6」(貨物車)、「大气3」(大気)などから、この社説の中心的話題は北京の大気汚染問題であり、自動車や貨物車との関係から述べられていることが分かる。さらに、「来

源3」(出所)、「研究3」(研究)、「治理3」(統治管理・対策)の語句から、汚染源の研究や対策などの部分的話題も考えられる。(15)は「深井14」(深い井戸)、「城市9」(都市)、「男童7」(男の子)、「坠井5」(井戸に陥る)などの語句から、男の子は都市の深い井戸に墜落した事件の内容と予測される。さらに、「管理7」(管理)、「安全4」(安全)、「事件3」(事件)などから、このような事件をなくし、安全のためにどうすればよいのかといった内容も端的に予想することができる。

中国語の社説も、よく反復される語句は見出し、冒頭文、末尾文のいずれかに含まれている場合が多いという特徴が見られた。次に、日本語の社説と同様に、中国語の社説も1文章例を用いて、同一語句及び関連語句の反復と社説全体との関連性を見てみる。

文章例2: 进京大货车这个“霾凶”该治治了 (2015/04/02、1188文字)

(北京行き大型貨物車この「PM2.5 犯人」は退治すべき)

1 在昨日举行的全国环境监测工作现场会上, 环保部副部长吴晓青披露, 我国已经完成了北京、天津、石家庄等9个大气污染防治重点城市的源解析工作。2 研究表明, 机动车、工业生产、燃煤、扬尘等是当前我国大部分城市环境空气中颗粒物的主要污染来源, 约占85%—90%。3 其中北京、杭州、广州、深圳的首要污染来源是机动车。

→ (昨日行われた全国環境モニタリングでは、環境保護部¹⁰副部長の吳曉青は、わが国は既に北京、天津、石家荘など主要都市9か所における大気汚染の改善防止についての分析が終了した、と公表した。研究によると、自動車、工場生産、石炭、塵やほこりなどは、当面わが国における大部分の都市の大気中の微粒子状物質の主な汚染源となっており、汚染全体の約85%~90%を占める。その中で北京、杭州、広州、深圳の主な汚染源は自動車である。)

4 从2013年启动的大气污染源解析工程, 现在终于有了一个研究结果。5 从这一次被锁定的雾霾“元凶”看, 无论是机动车、燃煤, 还是工业生产、扬尘, 一点儿也不让人意外。6“元凶”锁定, 目标明确, 接下来, 就应该进行有针对性的源头治理。

→ (2013年から発足した大気汚染源解析工程は、ようやく研究結果が出た。今回定められたPM2.5の「元凶」から見ると、自動車や石炭にしても、工場生産、塵やほこりにしても、全く意外なものではなかった。「元凶」を定め、目標を明確にし、次にそれに合わせた対策を行うべきである。)

7 以北京而言, 源解析的研究结论显示, 机动车是城市的首要污染来源。8 这一结论印证了此前一些专家的说法, 也让人感到未来治理的繁难所在。9 根据北京市公安局统计数据显示, 目前北京市汽车保有量已达到561万辆, 这样一个庞大的保有量规模不仅减不下来, 还在逐年攀升。10 如何在机动车保有数量的刚性与车辆使用的弹性之间, 求得一种平衡, 并不容易。

→ (例えば北京において、原因分析の研究の結論によると、自動車は都市における主な汚染源である。この結論は以前の専門家たちの考えを裏付けており、将来における監督管理の難しさを感じさせる。北京市公安局の統計データによると、現在北京市では自動車の保有台数は既に561万台に達しており、このような巨大な保有量は減るどころか、年々上昇している。自動車の保有台数増加の硬直性と車両使用の柔軟性の間で、どのようにして1種のバランスを思い出すのかは、容易ではない。)

11 除了民众出行的轿车, 影响北京大气质量的, 还有一个数量相当惊人的机动车群体, 那就是每天夜间进城或过境的大货车。12 据媒体报道, 每天夜间大约有两三万辆重型货车进入北京市区行驶, 北京市环保局机动车排放管理处处长李昆生介绍, 一辆达标的国四重型

¹⁰ 日本の厚生労働省に当たる。

柴油车排放的氮氧化物，相当于约 90 辆国四轿车的排放，与不达标或更低排放标准的重型柴油车相比较，可能会达到 100 倍~200 倍。¹³ 也就是说，夜间两三万辆重型货车进入北京，相当于有几百万辆小汽车在行驶，而这也是许多人感觉北京夜间污染程度要高于白天的主要原因。

→ (市民の自動車以外に、北京の大気の質に影響を与えるのは、もう一つ大規模な自動車の集団がある。それは毎夜到北京に行く大型貨物車である。報道によると、毎夜約兩、三万台の大型貨物車が北京市内を走っており、北京市環境保護局の自動車排出管理部部長の李昆生によると、一台の国 4 基準¹¹大型ディーゼル車が排出する窒素酸化物は、90 台の国 4 基準の乗用車に相当し、低排出基準の大型ディーゼル車と比較すると、それらの 100 倍~200 倍に達している、と述べた。つまり、夜間二、三万台の大型貨物車が北京に入るとは、数百万台の乗用車が走っていることに相当することになる。これも多くの人が北京の夜間の大気汚染レベルが昼間より高いと感じる主な原因となっている。)

14 而在以往的治理上，往往采取“堵”、“罰”等办法，现实地看，仅仅依靠这样的办法不可能生效。¹⁵ 这些进京大货车大多来自周边省份，在属地管理缺乏积极性、甚至是鼓励当地农民搞跨境运输的情况下，仅靠北京城外封堵，并不现实。¹⁶ 更何况，很多大货车承担的是北京市民诸如“菜篮子”等日常必需品的运输，一味堵在城外，怎么可能？

→ (しかし、以前の監督管理では、「封鎖」や「罰金」などの対策が取られがちだったが、現実には、このような方法だけに頼るのは得策ではない。これらの北京に行く大型貨物車のほとんどは周辺の省から来たものであり、所属地での管理は積極性に欠け、更に現地の農民がボーダー輸送を崩すことさえも奨励している。この場合において、北京郊外での封鎖だけでは、現実的ではない。まして、大型貨物車は北京市民の「菜篮子¹²」などの日常必需品の輸送を引き受けており、もっぱら北京城外に封鎖されるのは、あり得ないことである。)

17 据披露，在 APEC 会议期间，北京建立了外埠机动车超标排放信息“黑名单”制度，若能“常态化”，也可能会将一部分污染严重的车辆拒之门外。¹⁸ 此外，北京市正在推动与周边省市联手搭建一个超标车排放信息共享平台，推动开展异地处罚。¹⁹ 客观地说，这些措施都会有一定的效果，但似乎均非治本之策。

→ (公表によると、APEC 会議の間に、北京はよその都市から入った基準値を超えた自動車の「ブラックリスト」制度を設立し、この制度の「常態化」が可能であれば、深刻な汚染をもたらす車両を排除する可能性がある」と述べている。また、北京市は他省と共同で、排出規制を超えた車の排出量の情報共有プラットフォームを設立し、地域での処罰を推進する。客観的に言えば、これらの措置は一定の効果が得られるが、根本的な措置とは言えない。)

20 若要控制住大货车污染，根本之計在于，其一，严格环保前置审查，从源头设置门禁，提高车辆环保标准；其二，京津冀乃至华北地区有必要逐步统一油品标准，在今年全国两会上，李克强总理在政府工作报告中也提道：“治理机动车尾气，提高油品标准和质量，在重点区域内重点城市全面供应国五标准车用汽柴油。”

→ (大型貨物車の汚染を抑えるために、根本的対策として次の 2 点が考えられる。その一つとして、環境保護の事前審査を厳格化して監督し、車両の環境基準をあげることである。もう一つは、京津冀¹³及び、華北地区¹⁴で徐々に排出規制を統一することである。今

¹¹ 「国 4」は、排出規制のことである。中国ではユーロ基準がベースとなっており、乗用車について全国で「ユーロ 4」に相当する「国 4」基準が実施されている。

¹² 直訳すると、「料理かご」になるが、ここでは「日常必需品」の例えである。

¹³ それぞれ「北京」「天津」「河北省」の略称である。

¹⁴ 中国北部の呼称である。

年の全国两会¹⁵で、李克強総理は政府活動報告の中でもこのことに言及した。「自動車の排気ガスを監督管理し、燃料品質をあげ、主要区域内の主要都市において、全面的に国五¹⁶標準車用ディーゼル燃料を供給する」)

21 这些举措不仅涉及环保监管、交通管理，也涉及车企、油企生产标准的提高，甚至还与众多汽车改装厂不无关联，落实起来可能很难，但无论多难都应该尽快去做。22 不然，听任每夜数万个“移动烟囱”进出北京，则北京在拆掉煤气热电烟囱等其他方面的努力，难免会被抵消。

→ (これらの動きは環境保護の監督や交通管理だけでなく、自動車や燃料生産基準の向上、さらに多くの自動車改装工場にも関係している。実行は難しいかもしれないが、どんなに難しくても早急に行動しなければならない。そうでないと、毎夜数万台の「移動煙突」が入り出すことは、北京での石炭ガスや発電所などの煙突を取り除く努力を無駄にすることになるだろう。)

※ 「北京」(北京関係) → □、「大货车」(大型貨物車) → 大货车、「汚染」(汚染関係) → ○○汚染、「机动车」(自動車関係) → 机动车、「対策」(対策関係) → ○○対策

この社説の本文では、見出しにも出ている「京」(北京)は全体にわたって、16回繰り返され、また「北京」の共起語「北京市」「北京市民」「市内」などの関連語も見られた。本文の最初は、PM2.5に関する研究結果を紹介し、「大気汚染」系列の「大気汚染」(大気汚染)、「汚染来源」(汚染源)、「大気質量」(大気質)、「大货车汚染」(大型貨物車汚染)などの関連語が用いられ、大気問題は深刻になっていると述べられている。その大気汚染源がいくつか考えられるが、「机动车」(自動車)の排気ガスが最も深刻だったようで、そこから自動車の話題に展開し、自動車の中の「大型貨物車」といった種類が見出しにも出ている「PM2.5 犯人」ではないかと推測し、「轿车」「柴油车」など普通の車や、乗用車、ディーゼル車と比較し、排出ガス量をはるかに多いことを示した。さらに、対策系列「源头治理」(汚染源に対応する策)、「以往的治理」(今までの方法)、「根本的治理」(根本的な方法・対策)などの関連語を用いて、さまざまな対策の検討及び対策の実施を呼び掛ける書き手の主張が見られた。このように同一語句の反復のみではなく、関連語句の反復によって、話題の展開や内容の流れをつかむことが可能である。なお、「文章例2の反復図」は文末の資料を参照されたい。

5. 分析結果と考察

5.1 同一語句・関連語句の形態観点における結果と考察

『朝日新聞』の社説における同一語句の反復について、まったく同じ形式を用いるもの以外に、以下のような形式も見られた。元の言葉の短縮形を使う。例えば、「国土交通省」→「国交省」、「格安航空会社 LCC」→「LCC」など。また、元の言葉の一部分を使う。例えば、「地球温暖化」→「温暖化」、「省エネルギー」→「省エネ」、「JR 山手線」→「山手線」、「JR 東日本」→「JR 東」など。同一語句の反復は文章の中心話題を反映し、文と文のつながりに重要な役割を果たしているが、実際には社説の中ではそれほど多く用いられていない。『朝日新聞』の社説において関連語句の反復、特に同義語が多く見られた。例えば、「原爆ドーム 100 年に考える役割」(2015/04/05-2)の社説では、100 年を迎えた広島原爆ドームの役割については4回も述べられた(表4)。文番号

¹⁵ 中国独特の政策決定制度である。

¹⁶ 2016 年から「ユーロ 5」レベルの排出規制(「国 5」)が京津冀(北京市、天津市、河北省)、長江デルタ、珠江デルタなどの主要都市で全面的に実施されるという。

10では「役割」、15では「使命」、18では「責任」、28では「思索の原点」であり、それぞれ類似した表現が用いられ、原爆ドームのさまざまな役割を考えさせる言葉のバリエーションが見られた。

表 4

10 ¹⁷ この遺構の「役割」と、後世に引き継ぐ大切さを痛感する。
15 痛ましい記憶を呼び覚ます廃虚が、時代の流れを経て新たな「使命」を帯びたといえよう。
18 それでも、日本が核廃絶を世界に訴えるうえで、原爆ドームを核時代の「証人」として発信し続ける「責任」は大きい。
28 原爆ドームを、そういう「思索の原点」にしていきたい。

また、「検定発表 教科書はだれのものか」(2015/04/07-2)の社説の中では、「政府の考え方」という言葉が用いられ、後文ではそれぞれ「政府の見解」「政府の主張」などの同義語の使用が見られた(表5)。

表 5

4 教科書編集の指針を見直し、領土問題について「日本政府の考え方」を書くよう求めた。
5 検定基準も、慰安婦や戦後補償など「政府見解」がある事柄はそれに基づいて記すよう改めた。
19 「政府の見解」を知っておくことは悪いことではない。
26 「政府見解」は絶対的なものではない。
28 検定でそれを書くよう強ければ、合格がかかるだけに教科書会社や執筆者は萎縮し、「政府の主張」ばかり記すようになる。

その他、「拡大」「拡充」、「技能」「技量」、「強化する」「強める」などの同義語も数多く見られた。一方、『新京報』の社説は、同一語句の反復が非常に多かった。例えば、以下の表6を見てみよう。表6の左側は「虐童案警告：应对收养人做心理评估」(2015/04/05) (児童虐待事件の警告：引取り人の心理評価をすべきだ)の社説の中の系列である。虐待された男の子とその子を受け取った縁組人についての内容であるが、「男童」(男の子)以外に、「孩子」(子供)が数多く出ており、「縁組人」系列も「收养人」(縁組人)が何回も繰り返されている。しかも、同じ文の中でも数回反復されている。

表6の右側は「提网速降网费，高校可以例外？」(2015/05/17) (インターネットのスピード上げ・料金下げについて、大学は例外にできる?)という社説である。大学生のキャンパスや寮でインターネットを利用する際の内容であるが、「学生」系列、「インターネットの利用」系列に、それぞれ「学生」(学生)、「上网」(インターネットの利用)が何回も反復され、特に「学生」が非常に多く見られ、同じ文の中でも3回用いられた場合もあった。このように、中国語の社説では同じ語句の使用が頻繁に行われていた。

¹⁷ 文番号を表す。

表 6

見出し	虐童案警告：应对收养人做心理评估 (2015/04/05)		見出し	提网速降网费，高校可以例外？ (2015/05/17)	
	児童虐待事件の警告：引取り人の心理評価をすべきだ			インターネットのスピード上げ・料金下げについて、 大学は例外にできる？	
文	「男の子」系列	「縁組人」系列	文	「学生」系列	「インターネットの利用」系列
1	男童		1		
2	男童，男童	收养	2		
3	男童		3		
4			4		
5	孩子		5	消費者，消費者，大学生	上网幸福指数
6	男童		6	大学生	上网
7	孩子，孩子		7	学生，学生	上网
8	孩子	收养	8	学生	上网
9	孩子	收养	9	学生，学生，学生	上网，上网
10	孩子	收养人，收养	10		
11	孩子	收养人	11	学生	
12	孩子	收养，收养人	12	学生	上网，上网
13		收养政策，被收养	13	学生	上网
14	孩子	收养人，收养，收养人	14		上网
15		收养人，收养人，收养动机，收养	15	学生，学生	
16		收养人	16	学生，学生	
17	男童		17		
18	孩子，孩子，孩童， 孩子，孩子	收养，收养家庭，收养	18	学生，学生	
19	孩子	收养	19		
20	男童，孩童	收养人，收养审查，被收养	20	学生，学生，学生	
21	孩童，孩童，孩子	收养人，被收养，收养人	21	学生	
22		收养法律与政策，收养人	22		
23	孩子		23	学生，学生	
			24		
			25	学生，学生，学生	
			26	学生，学生	上网问题

日本語の新聞社説では、同じ言葉より類似した表現が好まれる傾向が見られた。単一の語彙の反復を避け、テキスト内における表現のバリエーションを豊かにしている。それに対して、中国語の社説では、同じ言葉の繰り返しが行われる傾向にあった。中心的话题やキーワードが何回も反復されることによって、読み手に強い印象を与えることができると考えられる。また、読み手が内容を読み進んでも、同じ話題のキーワードが出てくるため、混同することが少なく分かりやすいといった理由も挙げられると考えられる。

5.2 同一語句・関連語句の機能観点における結果と考察

4.2 節で取り上げた『朝日新聞』と『新京報』20 篇ずつの社説における 3 回以上の同一語句と、「見出し」、「冒頭文」、「末尾文」との関連性の結果は以下の表 7 に示す通りである。

表 7 同一語句と社説全体との関連性

	朝日新聞	新京報
同一語句反復総数	161	278
見出しに反復されている	41(25.47%)	41(14.75%)
冒頭文に反復されている	44(27.33%)	80(28.78%)
末尾文に反復されている	31(19.25%)	50(17.99%)
いずれかに反復されている	83(51.55%)	132(47.48%)
いずれも反復されていない	78(48.45%)	146(52.52%)

表7から分かるように、まず同一語句の反復は、「見出し」「冒頭文」「末尾文」のいずれかに反復されている割合及びそのいずれにも反復されていない割合は、日中両言語ともに5割ほどであり、大きな差異は見られなかった。次に、『朝日新聞』で同一語句が、見出し、冒頭文、末尾文に反復される割合はそれぞれ、25.47%、27.33%、19.25%であり、さほど変わらない。『新京報』の同一語句が、見出し、冒頭文、末尾文に反復される割合はそれぞれ、14.75%、28.78%、17.99%であり、冒頭文に繰り返される割合はほかより少々上回っていることが分かる。これは『新京報』の冒頭は出来事や現在の話題になっていることや関連したニュースを紹介し、中心話題やキーワードが冒頭で反復されることが多いためであると考えられる。

よく反復される同一語句は、社説の話題や中心的内容を反映し、見出し、冒頭文及び、末尾文のいずれかに含まれている場合が多く、社説が何について書かれているのかを端的に把握することができる。しかし、表7からも分かるように同一語句の反復のみでは、社説内容の展開と流れを把握することが不十分だと思われる。関連語句の反復も合わせてみていく必要がある。4.2節で取り上げた文章例1、文章例2の分析を通し、関連語句の反復によって社説の話題の広がり、内容の展開と流れをつかむことが可能であることが分かった。

論説文では、反復表現の様相が、その文章の話題や主題のありかたを反映していることが多い。特に、文章中の広い部分にわたって出現する関連語句は、話題の広がりや発展の方向を示すものが多い(高崎 1990: 51)。本稿の社説でもこのような特徴が見られた。同一語句の反復により、社説の話題や中心内容がまず予想され、さらに関連語句の反復により、話題の広がりや内容の展開と流れを把握することができる。このように、同一語句や関連語句の反復は、文章・テキストの話題のまとまりと展開の様相を捉えるのに重要な役割を果たしている。

6. おわりに

反復表現は文章・テキストの結束性を保証する重要な手段である。本稿は新聞社説を資料に、日中両言語における反復表現の形態と機能についての分析を行った。以下にその結果から明らかになった点をまとめる。

- ① 反復表現の形態面では、日中両言語の新聞社説のいずれでも、「同一語句の反復」と「関連語句の反復」(同義語、上位語、一般語、共起語)の使用が見られた。同一語句の反復は、テキストの中心話題やキーワードが何回も反復されることによって、テキストの内容や書き手の主張を予測させる。また関連語句の反復は、語彙の単一を避け、テキスト内における表現のバリエーションを豊かにしている。日中の相違点として、日本語の社説は「関連語句」のうちの「同義語」を多用する傾向が見られたのに対し、中国語の社説は「同一語句」の繰り返しが多かったということが挙げられる。
- ② 反復表現の機能面では、同一語句の反復は、「見出し」「冒頭文」「末尾文」のいずれかに反復されている割合は日中ともに5割ほどであり、顕著な差異は見られなかった。同一語句の反復のみでは、社説内容の展開と流れを把握することが不十分であり、関連語句の反復も合わせてみていく必要があると痛感した。同一語句と関連語句の反復を合わせて分析を行った結果、文章・テキストの話題のまとまりや展開の様相を捉えることが可能ということが分かった。

今後、さらに分析データを増やし、反復表現と社説全体との関連性を詳しく分析していきたい。また、本稿で扱わなかった他の結束手段(指示、接続、省略など)について

の検討も今後の課題としたい。

参考文献

- Halliday, M.A.K. and Hasan, R. (1976) *Cohesion in English*. Longman (ハリデイ, ハサン著, 安藤貞雄ほか訳 (1997)『テキストはどのように構成されるか: 言語の結束性』ひつじ書房)
- 相原林司 (1985)「反復表現の諸相」林四朗編『応用言語学講座 第1巻 日本語の教育』明治書院 pp.163-181.
- 池上嘉彦 (1983)「テキストとテキストの構造」『談話の研究と教育Ⅰ』(日本語教育指導参考書11) 国立国語研究所 pp.7-42.
- 市川孝 (1978)『文章論概説』教育出版
- 小野正樹 (1997)「新聞社説の結束構造について」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』12, pp.11-30.
- 鯨井綾希 (2014)「連文における名詞句のくり返しの形式分類」『言語科学論集』18, pp.39-50.
- 佐久間まゆみ、杉戸清樹、半澤幹一編 (1997)『文章・談話のしくみ』桜楓社
- 佐久間まゆみ (2002)「接続詞・指示詞と文連鎖」仁田義雄・益岡隆志(編)『日本語の文法4 複文と談話』岩波書店 pp.117-189.
- 塩澤和子 (1994)「社説の文章構造—語句の反復表現を手がかりとして—」『文芸言語研究・言語篇』25, pp.97-114.
- 塩澤和子 (2000)「文段分析の一考察(1): 語彙的手段による反復」『文芸言語研究 言語篇』37, pp.13-42.
- 塩澤和子 (2004)「コラムの文章構造: 語句の反復表現を手がかりに」『文芸言語研究 言語篇』45, pp.1-28.
- 塩澤和子 (2005)「コラムに観察されるくり返しの機能」『文芸言語研究 言語篇』47, pp.15-31.
- 泉子・K・メイナード (2005)『談話表現ハンドブック』くろしお出版
- 高崎みどり (1980)「文章における反復語句及び関連語句の機能について」『文教大学国文』14, pp.26-41.
- 高崎みどり (1990)「反復と省略の表現」寺村秀夫、佐久間まゆみ、杉戸清樹、半澤幹一編『ケーススタディ日本語の文章・談話』おうふう
- 高崎みどり (2005)「日本語随筆テキストにおける語彙的結束性について」『お茶の水女子大学人文科学研究』1, pp.101-111.
- 高崎みどり・新屋映子・立川和美 (2007)『日本語随筆テキストの諸相』ひつじ書房
- 寺村秀夫、佐久間まゆみ、杉戸清樹、半澤幹一編 (1990)『ケーススタディ日本語の文章・談話』おうふう
- 中村明ほか編集 (2011)『日本語文章・文体・表現事典』朝倉書店
- 永野賢 (1986)『文章論総説—文法論的考察』朝倉書店
- 西原鈴子 (1990)「日英対照修辭法」『日本語教育』72, pp.25-41.
- 西光義弘 (1990)「繰り返しの日英対照談話構造」『ことばの饗宴—うたげ』笈壽雄教授還暦記念論集 くろしお出版 pp.525-549.
- 馬場俊臣 (1986)『「主要語句」の連鎖と『反覆語句』との交渉』永野賢編『文章論と国語教育』朝倉書店 pp.68-83.
- 馬場俊臣 (2005)「反復・省略表現」多門靖容・半澤幹一編『ケーススタディ日本語の表現』おうふう

- 馬場俊臣 (2006) 『日本語の文連接表現—指示・接続・反復』おうふう出版
- 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 牧野成一 (1980) 「くりかえしの文法」大修館
- 牧野成一 (1983) 「省略と反復」中村明編『講座日本語の表現 5 表現のスタイル』筑摩書房 pp.73-87.
- 黄国文 (1988) 《语篇分析概要》湖南教育出版社
- 胡壮麟 (1994) 《语篇的衔接和连贯》上海外语教育出版社
- 朱永生, 郑立信, 苗新伟 (2002) 《英汉语篇衔接手段对比研究》上海外语教育出版社
- 鄭高咏 (2009) 「论汉语语篇中的主要语句连锁-以日本语法文章学理论为依据-」『言語と文化：愛知大学語学教育研究室紀要』47(20), pp.31-54.

使用したソフトウェア：[Http://khc.sourceforge.net/](http://khc.sourceforge.net/) 2015

文章例1の反復図

文	航空会社関係			操縦士関係			対策関係				年齢	時間	
1	格安航空会社 LCC	航空機	乗客	操縦士		増える、不足	問題			拡大			
2	LCC			操縦士、操縦 士		不足	2030年問題欠航事態	日本				40歳、15-20年後	昨年
3							対策	国土交通省		強めた			昨年夏
4				操縦士、副操 縦士、機長			短期策、期間の短縮	外国人		拡大		年齢上限7-8年	
5												年齢の上限65歳未 満、68歳未満	今月下旬
6	LCC、空のネ ットワーク		国内の旅行 客、訪日客										
7			乗客										
8				操縦士									
9	LCC				墜落事故			ドイツ					
10		機体		副操縦士									
11				副操縦士									
12	航空会社							全世界					
13	航空会社			乗務員			疲労リスク管理	わが国、健康 管理部門		強化			
14							健康管理			強化			
15					ドイツ機の 事故		健康管理						
16				操縦士		不足	中・長期的な対策	私立大学、民 間養成機関		拡充			
17								国	技能				
18							負担軽減策	学生					
19							事態	大学、桜美林 大、同大学					
20							問題	国、学生	技量				
21				操縦士		不足	穴埋め						
22					事故			国交省					

文章例2の反復図

文	北京及びその他の地域			大気汚染			自動車関係		対策関係			
1	北京	天津, 石家庄, 重点城市		大气污染	源解析工作					防治		
2		大部分城市		污染源		工业生产, 燃煤, 扬尘, 环境中颗粒物	机动车					
3	北京	杭州, 广州, 深圳		污染源			机动车					
4				大气污染	源解析工程							
5						燃煤, 工业生产, 扬尘, 雾霾	机动车					
6					源头					治理		
7	北京	城市		污染源	源解析		机动车					
8										治理		繁重
9	北京市						汽车	庞大的保有量				
10							机动车, 车辆					并不容易
11	北京			大气质量			机动车群体, 轿车, 大货车	数量相当惊人				
12	北京市区					氮氧化物	国四轿车, 国四重型柴油车, 重型货车, 不达标重型柴油车	两三万辆			达标, 不达标, 更低排放标准	
13	北京, 北京			污染程度			小汽车, 重型货车	两三万辆, 几百万辆				
14										治理, 堵, 罚		
15	当地农民		北京城外, 周边省份				大货车			封堵		
16	北京市民		城外				大货车			堵		
17	北京		外埠	污染			机动车, 车辆					
18	北京市		周边省市							处罚	超标车	
19										措施		
20	京	津冀, 华北地区, 重点城市, 重点区域		污染, 环保, 环保	源头	尾气	机动车, 大货车, 车辆			治理, 控制	环保标准, 油品标准, 油品标准, 国五标准	
21							汽车			举措, 环保监控, 交通管理	生产标准	很难
22	北京, 北京					煤气热电烟囱	移动烟囱	数万个				